

学部学生発表奨励賞 受賞作品発表と講評

今年度の学生ポスターセッションは、全体で10件の応募がありました。大学の数としては6大学であり、関西や関東、北陸の大学からの応募をいただきました。意欲的に取り組んでいただいた学生の皆様、ご指導いただきました会員の先生方に厚く御礼申し上げます。また大会参加者の皆様におかれましては、多くの方にセッション会場におこしいただき、活発な質疑応答や議論を行っていただきました。実りあるセッションとなりましたことに感謝申し上げます。

応募いただいた研究に対しまして、昨日皆様方から総数 90 票の投票をいただきました。その結果、学部学生発表奨励賞として、最優秀賞 1 点、優秀賞 2 点を決定いたしましたので発表させていただきます。

最優秀賞

発表タイトル まなざしの観光——神戸はいつからオシャレになったのか

関西大学社会学部社会学科マス・コミュニケーション学専攻

趙相宇・橋本マリア・福満葵（指導教員 山口誠先生）

（得票数 32 票、内訳一般 22 票、学生 10 票）

優秀賞 1 点目

発表タイトル 都市農村交流を通じた地域づくりの可能性に関する研究 —先発地飯田市を事例に

和歌山大学観光学部 今井寿樹・坂口未紗・貫田理紗・稲葉修武・及川美雲・平山美和子

（指導教員 藤田 武弘先生）

（得票数 16 票、内訳一般 10 票、学生 6 票）

優秀賞 2 点目

発表タイトル 被災地におけるコミュニティ・ベースド・ツーリズム—持続可能な地域発展にむけて—

和歌山大学観光学部 近藤真紀・小原里穂・金佳明・繁藝ひな子・高野愛梨・詫間奈々・吉村光（指導教員 神田孝治先生）

（得票数 15 票、内訳一般 13 票、学生 2 票）

最優秀賞の研究は、おしゃれなまち神戸というイメージがどのように形成されてきたかというテーマについて考察されたもので、過去の出来事をカメラの普及と発展という視点と関連付けて分析し、ジョン・アリーの理論を援用しながら論を展開した、極めて斬新かつ学術的な研究でした。

次に優秀賞1点目の研究は、一般的にまちづくりの成功例と言われている長野県飯田市に対して都市農村交流の課題と可能性を問うたもので、1000件を超えるアンケートなど大規模な調査に基づく調査結果を丁寧に分析され、説得力のある結論に導かれていました。

次に優秀賞2点目の研究は、被災地におけるコミュニティ・ベースド・ツーリズムという非常に重要なテーマに対して真正面から取り組まれた研究であり、学生自らがフィリピンにおけるフィールドワークを行い、聞き取り調査等を経て、現地の自治体や住民の方に提案を行うというしっかりしたスキームで行われておられました。

それでは今回の研究発表の全体的な印象につきまして、少し触れさせていただきます。

まず今回のテーマにつきましては、都市農村交流、外国人観光客の求めるもの、あるいは誘客方法、路地裏観光、国営公園における地域協働、被災地におけるコミュニティベースドツーリズム、カヤの自給率向上、観光学を学ぶ意義、カメラとまなざしまちづくり、戦争博物館の位置づけ、など極めて多岐にわたるものでした。改めて、学生の皆さんの興味分野の広さと斬新さを再確認いたしました。

研究手法としては、どの研究も共通してしっかりしたフィールドワークが行われており、インタビューやアンケート、観察に基づく考察が行われていました。さらに地域と協働した取り組みをすでに始められており、そこで発見された課題を論に組み込まれた研究も散見できました。更に研究を単発的にとらえずに、継続性を意識して、その展望を述べられた研究が複数見られたことも、今後に大きな期待を抱かせるものでした。

学生ポスターセッションも、今回で4回目を迎えることになりました。言うまでもなく、研究を行う者にとって考えをまとめ、発表し、他者に意見を問うことは極めて重要であり、本学会のセッションが学生の皆さんに対してその機会となっていることは、非常に有意義であると思います。今回ご参加いただいた学生の皆さんが、セッションを通して大きな成果を獲得されたことを期待しております。また先生方に於かれましては、今後このセッションを充実したものにするためにも、更に積極的な応募を学生に促していただきますようお願い申し上げます。

(文責 企画委員 片山)